

実践報告 札幌市立真駒内公園小学校

(1) 研究内容

研究課題：「人権教育を基盤とした学校づくりに関する研究」

「自分」を大切に、「ひと」を思いやることのできる子どもの育成

～自尊感情を高めることを軸とした人権の授業づくり～

- 命の尊さを理解し、自分の命も、他者の命も大切に感じることができている心情を育てる。
- 自分や相手を尊重する実践的態度を育てる。

(2) 実践の内容

【実践①】3 学年「赤ちゃん誕生」について

○ ねらい

自分の誕生は、周囲の人に支えられ、守られながら、成長していることに気付く。

○ 学習内容

- ・ 保健師や保育士の方を招いて、胎児の成長の様子について知る。
- ・ 自分の生後 1～2 年の様子について、保護者から話を聞く。
- ・ 赤ちゃん誕生に関わる周りの人の思いについて考える。
- ・ 子育てサロン、保育園に来ている赤ちゃん、お母さんや保母さんと交流する。
- ・ 「命の学習」について、専門家の話を聞く。



【実践②】6 学年「描こう 未来予想図」について

○ ねらい

自分の将来の夢について、多くの方から話を聞いたり、自分の考えを話したりして、将来への希望や努力に気付き、自分を見つめ直すきっかけづくりにする。

○ 学習内容

- ・ 自分のあこがれの職業について考え、調べる。
- ・ 多くの種類の職業の方から、話を聞いたり、相談したりする。
- ・ 本校職員から体験談を聞き、自分の将来について考える。
- ・ 多くの方の話を聞いて自分の夢を見直し、考える。
- ・ 保護者に自分の夢を語る。



(3) 研究のまとめ

① 成果

- 本校では、開校当時から「人権学習」を核として研究を進め、平成 26 年度に実践発表会を開催した。現在は実践発表会で得た成果を教育課程に位置付け、継続して「人権学習」を実践している。自他を大切にしたい思いやりの心が、学級経営、子どもの学習の様子などからも感じられる。
- 3 年生の実践では、子どもたちは自分が多くの人に祝福されながら誕生したことを知ることができ、改めて自分の大切さを実感することができた。自分の命は自分だけのものではなく、周りの人たちに助けられながら生きてきたことに気付き、命の尊さについても感じるすることができた。
- 6 年生の実践では、子どもたちが将来の夢をゲストティーチャーに相談したり、友達同士で伝え合ったりする姿も見られた。このような場を設定することで、多くの人と触れ合い、「自分」を考えるよい機会となった。さらに、今年は本校職員から体験談を聞く場を設けた。普段より職員を身近に感じ、自分が努力すべき点や足りない点について相談しやすくなった。このように多くの方からアドバイスを取り入れることで、「自分」について、より真剣に考えることができた。また、友達との交流を通して、「自分」だけではなく、「友達」も大切にできる相手意識を醸成することができた。

② 課題

- 前年までの学習内容や活動を踏まえ学習を進めているが、子どもたちの実態に合ったカリキュラムや活動内容の精選が必要である。
- 毎年多くのゲストティーチャーに来校していただいて、大きな成果を挙げている。しかし、所用等で来られない方もいるため、毎年、人数が変わっている。今後は、予定を早めに知らせて、人数確保をしていくことが、スムーズな活動につながる。

③ 提言「人権教育のすすめ」

- 単学年で終結するのではなく、6 年間という長期的なスパンで人権教育を進めることが大切である。そのためには、教育課程にしっかり位置付け、継続し、地域、保護者の方にも発信して、理解、協力を得ることが必要である。